PRESS RELEASE

国立大学法人 徳島大学

JIHS Japan Institute for Health Security

MNUMS Mongolian National University of Medical Sciences 1942

MONGOLIA-JAPAN HOSPITAL Mongolian National University of Medical Sciences 1942

NATIONAL CENTER FOR PATHOLOGY

令和 7 年 4 月 22 日

徳島大学で初の地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム（SATREPS）に採択
～モンゴルで蔓延する D 型肝炎ウイルス感染の制圧へ～

＜ポイント＞

・本学が提案した研究が令和 7 年度「地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム（SATREPS）」に採択されました。

・中国四国地方において、感染症分野の SATREPS プロジェクトに代表機関として本学が採択されるのは初めてです。

・本プログラムでは、令和 7 年度の暫定期間を含む 6 年間で、最大 5 億円規模の予算が措置される予定です。

＜報道概要＞

2025（令和 7）年 4 月 17 日付けで徳島大学大学院医歯薬学研究部の駒 貴明（こまたかあき）准教授を代表とする研究が、令和 7 年度「地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム（SATREPS）」に採択されました。SATREPS（感染症分野）では、国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）と独立行政法人国際協力機構（JICA）の支援を受け、科学技術を活用した国際共同研究を通じて地球規模の課題解決を目指します。感染症分野の SATREPS に代表機関として採択されるのは中国四国地方で初めてとなります。本研究では、本学と本学の学術交流協定校であるモンゴル国立医科大学を中心とする研究グループが協力し、モンゴルで深刻な公衆衛生上の課題となっている D 型肝炎ウイルス（HDV）感染の制圧に取り組みます。

SATREPS（サトレップス）は、開発途上国のニーズをもとに、地球規模課題の解決に向けた日本と開発途上国との国際共同研究を政府開発援助（ODA）と連携して推進するプログラムです。本事業は、文部科学省と外務省の支援のもと「科学技術外交」の強化を目的として AMED と JICA が連携して実施するものです。徳島大学では初めて SATREPS に採択されました（条件付き[*1]）。

[*1] 相手国機関との実務協議が合意に至り、正式に共同研究を開始できるまでの暫定処置として条件付き採択となります。

公募や選考プロセスにつきまして、詳しくは下記 URL をご覧ください。

SATREPS ホームページ（公募・選考プロセス）

https://www.amed.go.jp/koubo/20/01/2001B_00096.html

AMED ホームページ（公募情報）

https://www.jst.go.jp/global/koubo/selection_process.html

770-8501

徳島市新蔵町 2 丁目 24 番地

電話番号 088-656-7021

https://www.tokushima-u.ac.jp /

R6083

研究課題名：
モンゴルに蔓延するD型肝炎ウイルス感染の制圧に向けた研究開発

研究者（所属機関）：
・駒 貴明（徳島大学大学院医歯薬学研究部微生物病原学分野准教授）（代表）
・常山 幸一（徳島大学大学院医歯薬学研究部疾患病理学分野教授）
・野間口 雅子（徳島大学大学院医歯薬学研究部微生物病原学分野教授）
・渡士 幸一（国立健康危機管理研究機構国立感染症研究所治療薬開発研究部部長）

相手国研究機関：
・Mongolian National University of Medical Sciences (MNUMS)
・Mongolia-Japan Hospital of MNUMS
・National Center for Communicable Diseases Mongolia (NCCD)
・National Center for Pathology (NCP)

研究期間：令和8年度～令和12年度（令和7年度は研究準備を行う暫定期間）

予算規模：暫定期間を含めた全期間で最大5億円程度

研究概要：
本研究計画は、世界的に深刻な公衆衛生上の課題であるウイルス性肝炎のうち、特にD型肝炎ウイルス（HDV）感染に焦点を当てています。HDVは、B型肝炎ウイルス（HBV）の助けを借りて増殖するウイルスです。このウイルスに感染すると、HBV単独感染時よりも慢性肝炎が重症化しやすく、肝硬変や肝がん（HCC）に進行するリスクが大幅に高まります。しかし、これまでHDV感染はあまり注目されず、「顧みられない疾患」とされてきました。

近年の研究によると、世界で約4,800万～6,000万人がHDVに感染していると推定されており、以前の認識よりもはるかに多くの人が影響を受けていることが明らかになっています。このため、近年HDV感染への関心が高まっています。しかし、HDVに関する対策は未だ世界的に遅れており、検査体制が十分に整っておらず、発がんの仕組みも解明されていません。そのため、HDV感染対策は国際的に取り組むべき重要な課題となっています。

特にモンゴルでは、肝がんの発生率と死亡率が世界で最も高く、HBV感染者の60%以上がHDVにも感染しているという深刻な状況にあります。そのため、モンゴルにおけるHDV対策は国の公衆衛生上の最優先課題となっています。しかし、HDV検査薬が高価で検査体制が整わず、感染症の専門人材も不足しているのが現状です。相手国より、これらの課題解決の要望を受け、本研究では、モンゴルにおけるHDV感染の制御にウイルス学の専門家と病理学の専門家が共同して取り組みます。

安価で簡便に使えるHDV抗体検出法を開発し、モンゴルの研究者に提供します。その後、現地の研究者がこの検査法を習得し、検査体制を整備・強化し、HDV感染の有無を調べます。さらに、この検査法を用いて、数千人規模のモンゴル国民を対象とした調査を実施し、HBVワクチンの有効性やモン

ゴル国内の感染経路などを解明します。こうした研究成果をもとに、モンゴルにおける効果的な感染予防策を策定します。また、HDV 感染による発がんメカニズムの解明を進めます。具体的には、HDV 感染患者の肝組織を詳しく分析し、がん関連遺伝子の変異や、肝がんを促進する因子を特定します。これにより、HDV 感染がどのように肝疾患を悪化させ、がんを引き起こすのかを分子レベルで明らかにし、新たな治療薬の開発につなげます。

また、モンゴルで不足している感染症の専門人材の育成にも力を入れます。短期育成として専門トレーニングや日本での研修を実施し、すぐに現場で活躍できる人材を育てます。長期育成では、徳島大学の博士課程にモンゴルの学生を受け入れ、将来的にモンゴル国内で研究者や医療従事者を育成できる感染症専門家を養成します。

本研究は、診断法確立・疫学調査・発がんメカニズムの解明・人材育成という多角的なアプローチを取り、モンゴル国内で持続可能な検査体制の構築と専門家の育成を進めることで、長期的な HDV 感染対策の実現を目指します。さらに、モンゴルでの成功をモデルケースとし、他の HDV 感染が広がっている国々における感染対策にも貢献できると考えています。

日本は、モンゴルの HDV 感染者から得られたサンプルを活用し、効果的に研究を進めることができます。さらに、HDV 感染と発がんの仕組みを解明することで、影響力のある論文を発表し、国際的ながん研究やウイルス学研究の分野でリーダーシップを確立することが期待されます。加えて、国内における HDV 感染への理解を深める啓発活動を推進し、日本の国際保健分野での貢献を強化することにもつながります。

お問い合わせ先
徳島大学大学院医歯薬学研究部微生物病原学分野
准教授　駒 貴明
電話番号　088-633-9232
メールアドレス　tkoma@tokushima-u.ac.jp